

平成 28 年度 第 1 回 伊賀市青少年センター運営委員会 会議録

平成 28 年 7 月 20 日 (水) 午前 9 時 30 分～
ハイトピア伊賀 5 階 学習室 2

1. あいさつ

教育次長

2. 委嘱状交付

教育次長より交付

委員・事務局の紹介

3. 協議事項

(1) 平成 27 年度活動報告について

－事務局より平成 27 年度活動報告の説明－

昨年度の課題の報告

－平成 27 年度の児童虐待・DV相談、小中学校児童生徒による問題行動及び事件報告、青少年相談内容の報告－

委員：児童虐待の件数について、県内では伊賀市はどのような状況であるか。また、これはほとんど通報によってあがってきている件数か。

事務局：県下の数は持ってきていない。この会議で課題としてお伺いはしているが実はこの会議の趣旨とは少し違うという思いもあり、申し訳ないが、詳しい資料は持ってきていない。担当者は数を把握しているが、人口の割合にしたら、伊賀市が多い方ではないと思うが、ただ、心理的な虐待は多いと把握している。虐待件数が増えている要素としては、通報があつてあがってくる事案も多くあるが、虐待がDVと同時に起こっている事例が多く、DVの相談に来られたが、話を聞き進めていくと虐待の案件でもあることも多い。このような問題はいろいろな問題が複雑に絡み合っている。生活支援課など他の課と連携しての対応もある。また、相談が浸透してきたともとれるが、外国人の相談が増えてきている。虐待は、通報によってあがってくる事案が多く、アウトリーチが必要であるとも考えているが難しい部分もあり、まだまだ届いていないこともあるので、各関係機関と連携して対応していきたいと考えている。

委員：他で起こっている事件などを聞くと、児童相談所との連携についても聞くので、できるだけ早く発見して軽く済むように児童相談所との連携をお願い

いしたい。

委員：補足になるが、先程、市と児童相談所との連絡についての話があったが、2週間に一度、その間に起こった事件について1件ずつ意見交換を行なっている。学校や保育所からの見守りもしていただいております、連絡いただくこともある。それから、条例で市民からの通報義務が定められており、通報いただいている。

事務局：補足だが、県の資料で、三重県の児童相談所への相談件数は平成24年が1,022件、平成25年が1,117件、平成26年が1,112件だった。

議長：虐待については目に見えにくいこともあり苦慮されているかと思う。周囲の方々、関係機関の方々、双方の連携が大切だ。よろしくお願ひしたい。

委員：補導の件数が2件とかなり減っているが、実態として本当に減ってきているのか、あるいはうまく立ち回っているのか。

事務局：私は青少年センター3年目だが、一昨年は補導中に、自転車駐輪場でタバコを吸っている生徒を見かけ、補導員が声をかけてタバコを預かることもあった。その後学校へ連絡すると、学校もその生徒のことを指導しており把握していた。しかし、昨年は補導中にタバコを注意することはなくなり、学校へ聞いてみても、昨年は校内でタバコを注意したこともほとんどなかったようだ。タバコに関していえば、先程の話のように隠れてしていることもなさそうだ。ただ、先程も報告したが、不純異性交遊については、高校からも聞いているし、複数報告を受けている。それは今までになかったことなので、質が変わってきたのかなと感じている。また、ゲームセンターへ来ている子どもの数も減ってきているが、わざわざお金を使ってゲームセンターへ行かなくても、家でゲームができるし、それを通じて友達ができたりもするようだ。名張の伊賀少年サポートセンターから聞いたことだが、バイクの暴走行為をしている青少年がいて、そこに中学生が引っ張られているようで、伊賀にも広がって来ないかと気になっている。

委員：喫煙について、購入ルートが気になる。購入するとなると、たばこの価格が上がっていることもあり、それによる金銭トラブルや犯罪が見えてくるのだが、そういう部分について私達も検討していければと思う。

事務局：私の家はタバコ屋だが、大変売り上げが下がっている。原因は、価格が上がったこととタスポである。昔ながらの店もコンビニも、年齢確認をするため、現実として子ども達は非常に買いにくくなっているのが事実だと思う。昔は親のタスポを盗んで購入することもあったが最近はあまりないようだ。また、学校での禁煙教育も進んでいると感じる。そういうことが、たばこを吸う子ども達が減ってきている原因だと思う。

委員：先程も非行少年の話が出ていたが、私も伊賀に2月に異動してきたところで昨年の詳しいことは分からないが、数字で見ると、警察に検挙されたと

か補導された非行少年は伊賀署管内で減っており、県下で見ても減っている。喫煙や深夜徘徊も減っている。なぜかといわれてもなかなか難しいが、一つは、タバコは年齢確認やタスポがあると思う。子ども達は家の中でゲームやSNS, ラインをしており、昔と変わってきている。ただ、減っては来ているが、夜10時以降の深夜に、決まった子になるが、コンビニなどに徘徊する子がいて、補導している。暴走行為も一時に比べて減ったが、週末の夜になると「単車がうるさい」と通報がある。先般、事後捜査で、止まっているバイクに整備不良があったためバイクを引き上げて交通切符を切った。こうしたことを地道に重ねていけばある程度減っていくのではないかと考えている。虐待やストーカーDVなど人身関連事案については、警察は最優先で取り組んでおり、児童相談所、伊賀市としっかり連携してやっている。伊賀は外国人のDV被害が増えてきており、その際一番困るのが言葉の問題である。警察にも通訳がいるが、伊賀市にも通訳があるので非常に心強く感じている。今後もよろしくお願ひしたい。

(2) 平成28年度活動概要について

―事務局より平成28年度活動概要の説明―

議長：今年度の補導活動状況を報告いただきたい。

事務局：今年も昨年度と同じような傾向で、喫煙の現場を指導するようなことはなかった。自転車の二人乗りはあった。

青少年相談で、高専生本人からの相談があったが、「友達からノートを借りて約束した日に返すのを忘れてしまい、返すのが2日後になった。借りた相手に、返すのが遅れたことを怒られた。その際、「もうすぐ就職して社会にでるのに、そんな小さいことで怒ってたらあかん」と借りた相手に言った。相手の友達は、それを聞いてすごく怒ったとのことだった。友達と仲良くしたいならば、相手の気持ちを考えて話をしなければならぬと指導したが、高専3年生にもなるのにこの状況とは、友達との人間関係の構築がむずかしいのかなと印象を受けた。